

平成 18 年度 深海調査研究公募船舶機器・海域等について

深海調査研究推進委員会
深海調査研究計画委員会

平成 18 年度公募対象船舶機器の変更点、海域並びに気象情報などを示す。

1. 平成 18 年度 公募対象船舶、調査機器等

- (1) 潜水調査船「しんかい 6500」
 - ・一行動における潜航回数の設定は自由であるが、原則として連続潜航は最大 5 日間とする。
- (2) 無人探査機「かいこう 7000」と深海調査研究船「かいいい」
 - ・無人探査機「かいこう 7000」(Max. Depth: 7000m) を搭載した航海と深海調査研究船「かいいい」単独の航海がある。
- (3) 無人探査機「ハイパードルフィン」、深海曳航システム 4000m 級「ディープ・トウ」(深海カメラ、サイドスキャンソナー)
 - ・両調査機器は、「なつしま」に同時搭載は出来ない。なお、「なつしま」はマルチナロービーム音響測深機 (SEABAT8160 Max. Depth: 3000m) を装備している。
 - ・無人探査機、「ディープ・トウ」の連続潜航は原則、最大 8 日間とする。
 - ・「よこすか」「かいいい」には「ハイパードルフィン」を搭載できないが、「ディープ・トウ」は搭載可能である。
 - ・「よこすか」には、「しんかい 6500」の安全確認に使用する「ディープ・トウ」を常時搭載している。準調査機器として使用可能であるが、詳細な運用方法については課題採択後に調整の必要がある。
- (4) シングルチャンネル音波探査装置 (SCS)
 - ・「よこすか」「なつしま」及び「かいいい」に搭載可能だが、各船での構成が若干異なるので、それぞれの制限とともに以下にまとめる。
 - 主要機器：コンプレッサーユニット (20feet コンテナ)、エアガン、ストリーマケーブル、制御装置、記録装置等一式
 - 各船での搭載に係わる制限等
 - ・「よこすか」及び「なつしま」
 - ：コンプレッサーユニットの搭載が必要。他にコンテナを搭載する場合は調整を要する。
 - ・「かいいい」
 - ：コンプレッサーは固定装備品を使用出来ることから、それ以外の機器の搭載だけで実施可能。
- (5) 測深航跡図 (Multibeam Echo Sounder Survey Lines)
「よこすか」「かいいい」「みらい」(SEABEAM2112)、「かいよう」(SEABEAM2100)、「なつしま」(SEABAT8160) による過去の調査海域は別添：測深航跡図 (Multibeam Echo Sounder Survey Lines) の通りであるが、該当する調査海域では過去の測深データを利用し、海底地形図取得の重複を避ける。
- (6) 公募対象船舶機器・ペイロード機器の詳細情報は、各船舶「利用の手引き」を参照のこと。

2. 「マルチチャンネル反射法探査装置 (MCS)」の測線提案型公募について

“ 深海調査研究中期戦略 “ に示されたように IODP 科学プロポーザルのためのサイトサーベイ等、本年度について海洋研究開発機構所有のマルチチャンネル反射法探査装置 (MCS) を伊豆・小笠原周辺海域において以下の条件で測線提案型公募する。

(「マルチチャンネル反射法探査装置 (MCS) 仕様」 参照)

JAMSTEC が実施する「伊豆・小笠原海域地殻構造調査：大陸棚画定プロジェクト」時 (H18 年度 3 行動予定、詳細については非公開) に、Ship Time 等の許す範囲で採択測線のデータ取得を実施する。提案測線全てを実施できるかは保証しない。

提案者または協力者の乗船は拒まないが、乗船航海で実施できるか、どの行動で実施出来るかは「伊豆・小笠原海域地殻構造調査：大陸棚画定プロジェクト」行動の進捗状況次第となる。

原則、船上基本処理データ (Near Trace Section) について提案者に提供する。

複数の測線または長い測線を提案する場合、それらの優先順位や主要計測範囲について明確に示すこと。

本“ 測線提案型公募 ” に他の深海公募機器との抱き合わせ提案はしないこと。必要であれば別行動として提案すること。

3. 海域について

海図等から明らかに危険と考えられる海域には潜航しない。

沖縄トラフ伊是名海穴は、浮き魚礁の撤去作業を平成 14 年度から無人探査機「ハイパードルフィン」の訓練潜航において実施しているが、未だ全ての浮き魚礁の撤去は完了していない。したがって、平成 18 年度も沖縄トラフの伊是名海穴においては、無人探査機「ハイパードルフィン」による潜航調査のみ実施する。同じく、南奄西海丘の潜航禁止は有人・無人機共に解除する。

4. 調査海域事前説明及び気象・海象情報の提供

研究計画立案の段階で調査海域及び気象・海象等の情報の窓口は、JAMSTEC 船舶運用グループとする。(TEL : 046-867-9919、9920 E-mail : sod-rsd@jamstec.go.jp)

但し、気象・海象情報データの収集に経費が発生する場合は、実費を請求する場合もある。

5. 調査日数枠

利用船舶の航海日数は、JAMSTEC 所内の航海日数と合わせて原則 280 日以内を制限とする。

(参考-1、-2 日数表 参照)

6. 経費等

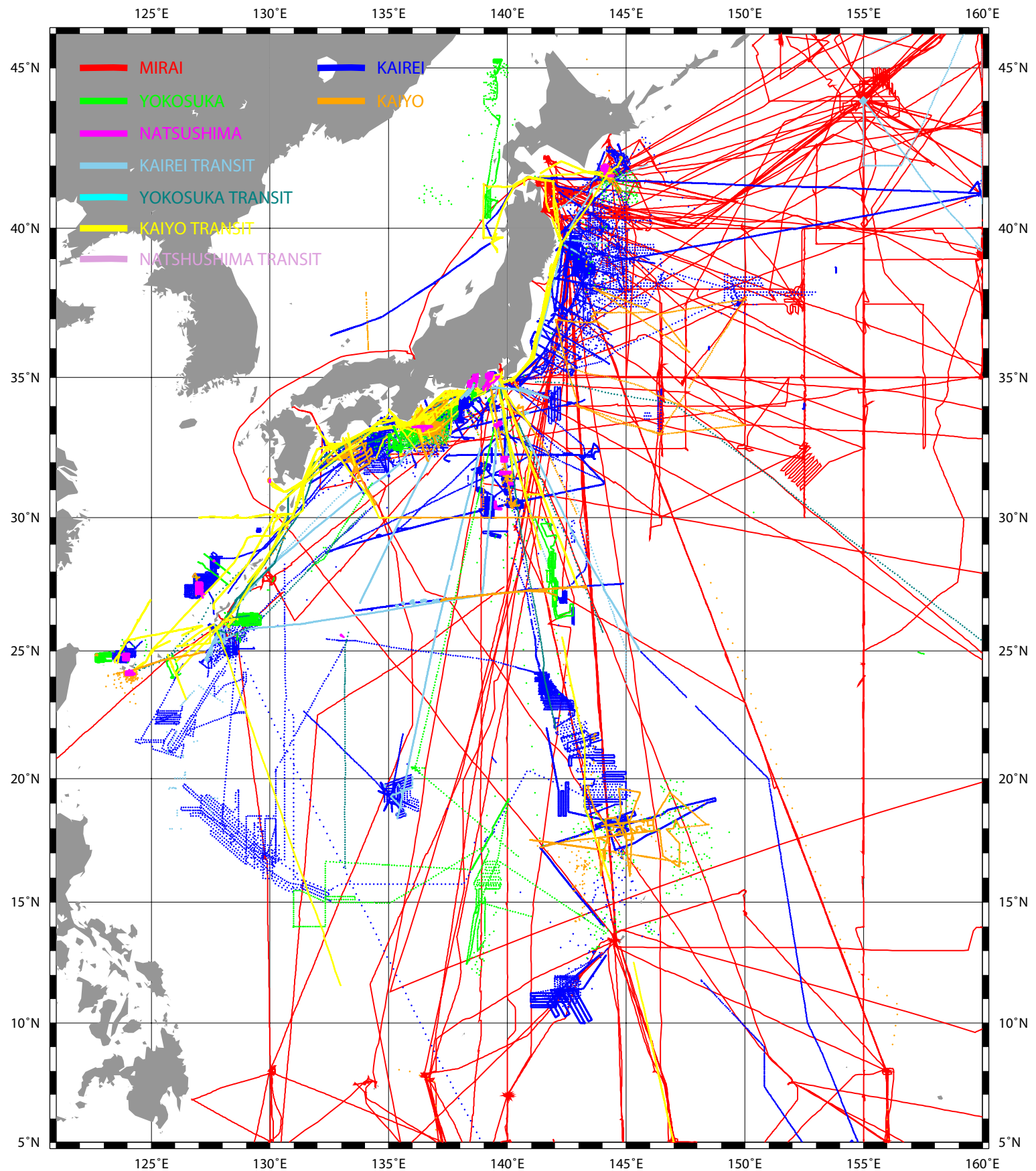
- 1) 上記以外の機器の使用を希望する研究者は、プロポーザル申請時にその旨を申請用紙に明記すること。なお、当該機器による観測調査の実施に観測技術員が必要であると JAMSTEC が判断した場合、その経費の負担を研究者に請求する場合もある。
- 2) 持ち込み機器による調査行動で大規模な船舶の艦装替えが必要な場合、その経費の負担を研究者に請求する場合もある。
- 3) 潜水船、無人探査機以外の「ディーブ・トウ」、「SCS」、「ピストンコア」、「ドレッジ」等は、通年での保険付保並びに消耗品の予算化が出来ていないことから、消耗品費の負担を請求する場合もある。

7. 別添 測深航跡図 (Multibeam Echo Sounder Survey Lines)

8. 参考

参考-1：平成 16 年度各船公募航海・潜航・ドック日数表 (実績)

Multibeam Echo Sounder Survey Lines



2004年度の航跡図まで表示
作成 2005. 5. 25

平成 16 年度各船公募航海・潜航・ドック日数表（実績）

船名	調査機器名	平成 16 年度公募 実績航海日数	平成 16 年度 実績ドック海上試験期間・日数
「なつしま」	「ハイパードルフィン」 調査潜航	公募利用 135 日間 83 回潜航	「なつしま」(海上試験含む) 10/12～11/26 46 日間
		公募利用 12 日間 5 回潜航	
	公募航海日数 計 147 日間	総航海日数 286 日	
「しんかい 6500」 (「よこすか」)	「しんかい 6500」 調査潜航	公募利用 184 日間 43 回潜航	「しんかい 6500」 12/16～3/20 95 日間
		公募航海日数 計 184 日間	
	総航海日数 275 日		
「かいいい」	「ディープ・トウ」 調査潜航	公募利用 14 日間 4 回潜航	「かいいい」(海上試験含む) 1/28～3/15 47 日間
		公募利用 100 日間	
	公募航海日数 計 114 日間	総航海日数 261 日	

平成 17 年度各船公募航海・潜航日数表（予定）

船 名	調査機器名	公募航海予定日数
「なつしま」	「ハイパードルフィン」 調査潜航 「なつしま」単独航海	212 日間航海 183 日潜航予定
		27 日間
		計 239 日間
「しんかい 6500」 （「よこすか」）	「しんかい 6500」 調査潜航	173 日間航海 87 回潜航予定
		計 173 日間
「かいこう 7000」 「かいいい」	「かいこう 7000」 調査潜航 「かいいい」単独航海	72 日間航海 54 日潜航予定
		99 日間
		計 171 日間